

- 1 審議会名 丸子地域協議会
- 2 日 時 平成30年7月24日(火) 午後1時30分から午後3時50分まで
- 3 会 場 丸子地域自治センター 4階 講堂
- 4 出席者 小澤厚会長、田村裕子副会長、内堀敏高委員、大神文子委員、斎藤明委員
斎藤ゆり子委員、竹鼻麻希江委員、富岡太刀夫委員、永井静江委員、中村勝彦委員
成澤和美委員、西沢久委員、御堂島明委員、宮岸喜恵子委員、宮坂和雄委員
横山佳栄委員、綿谷憲一委員
【欠席委員3名】
- 5 市側出席者 手塚丸子地域自治センター長、滝沢丸子地域自治センター次長兼地域振興課長
青木丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、下村市民サービス会長
鈴木産業観光課長、堀内建設課長、藤極丸子・武石上下水道課長
深町丸子学校給食センター所長、丸山丸子消防署長
【事務局】真壁地域振興課長補佐兼地域政策担当係長、竹花主査、緑川主査
【説明者】滝澤上田市立博物館長
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 3人 ・ 記者 2人
- 8 会議概要作成年月日 平成30年8月15日

1 開 会 (滝沢センター次長)

2 あいさつ

3 協議事項

(1) わがまち魅力アップ応援事業の選考審査について

平成30年度わがまち魅力アップ応援事業第2回募集において、新規事業3件、継続事業1件の計4件の選考申込みがあった。新規事業3件について、各団体による事業説明と質疑応答を実施した後、各委員による審査調書の評価を集計し、審査した委員全員にて採点結果や条件の有無等を確認・協議した結果、1件の新規事業が採択となった。また継続事業については、事務局審査の結果(採択1件)を報告したところ、委員からは特段の意見はなかった。

採否にかかる評価や協議は非公開

採択となった事業の団体名、事業名は次のとおりである。

- (新規) 塩川地区地域づくりの会「歴史と未来あふれる塩川地区の魅力再発見・発信する事業」
(継続) 雅楽の演奏復活の会 「歴史と文化の復活プロジェクト」

4 報告事項

(1) 上田市公文書館併設に伴う上田市立丸子郷土博物館の一部改修と臨時休館について

担当課より説明した。

(以下質問)

(会長) 昨年この説明会があった時に協議会としていくつか要望事項が出ていると思うが、どういう形で入っているか。

(上田市立博物館) 総務部で答えるものですが、私の聞いている範囲では、丸子郷土博物館を主として公文書館を準拠するというような形の様であります。館長にあたる人は博物館長が主務で公文書館長が兼務とするということ聞いております。また専門職員として学芸員並びに公文書関係の専門員を置くということも聞かされております。

(委員) 上田市内では「蚕都上田」といっているが、そもそも製糸業はどちらかというと丸子の方がメインだったので、その資料や機械類は是非大事に保管してきちんと展示して欲しいということと、銅像は外に出しても傷んだりしないか。

(上田市立博物館) まず一つ目でございますが、おっしゃる通り蚕都上田と申しまして丸子の蚕糸業の歴史、産業の活性化の経過いずれもが、全国的に見ても非常に重要な位置付けができるかと思えます。上田公園内にある博物館本館では残念ながら近現代における蚕糸の常設はスペース的に難しいのですが、丸子郷土博物館におきましては、リニューアル後も蚕糸業を紹介する展示を続けていきたいと思っております。銅像ですが、昨今酸性雨などの問題があるという話ですが、基本的に欧米

諸国におきましても、また美ヶ原高原美術館でも屋外展示をしております。そういった意味でも屋外に置いてこそ活用、空間を美術的な力によって活用することは重要な部分でございます。構造上ブロンズという物は緑青に覆われてくるのは、銅の部分が化学変化して被膜ができるという意味でございますので、むしろ長く保存できるものであると世界的に言われております。

- (会長) 公文書の収蔵が具体的に始まるのは、改修が終わった段階で始まるということか。
- (上田市立博物館) すでに旧西部公民館を使って、主に史資料編纂などに関わってきたOBの先生方などがその職に就いて、複数の職員が整理に取り掛かっております。改修終了をもって始まるのではなく、すでに準備は始まっております。
- (委員) 資料を閲覧するには手続きが難しいと聞いた事があるが、簡便に地域に公開する事は考えているか。
- (上田市立博物館) 公文書館に収められる文書資料、今まで丸子郷土博物館にありました様々な資料、両方共上田市にとって文化的に重要な資料でありますし優越は付け難いものでありますので、博物館資料並びに公文書館資料を順次手続きを簡便にしていければと存じます。他の博物館もそうですが、当日手続きをしてすぐに閲覧というのはなかなか難しい訳で、これからもそうできるかは即答しかねますが、いずれにせよ公文書館、博物館として活性化される中でそういった事情も解決されるかと思えます。

(2) 農業集落排水処理施設の統合について 担当課より説明した。

- (以下質問)
- (会長) 各地区の説明会はされたか。
- (課長) それぞれ3地区で説明会を開催させていただいたり、県営の上下センターの管轄になります地域など下流地域の自治会長の皆様には説明させていただいております。

(3) 分科会及び研究会での検討状況について

(ア) 丸子地域の子育て支援及び福祉に関する分科会

- ・分科会長に永井委員、副会長に成澤委員が選任。
- ・事務局より、前期活動内容について報告
- ・協議内容として、事務局より前期まで子育て支援に特化していたが、前期活動を継続しつつ福祉分野まで広げて活動をするのと説明あり。幅が広がって何をしたいかまだ決まっていない。
- ・委員から上田市では「健幸都市」をうたっているが、実際の施策はどんな内容か、高齢者が何を求めて暮らしやすいかは人それぞれ違う、高齢者福祉を考えると公共交通との関わりが出てくるので分科会の横の繋がりが大切
- ・次回各委員から福祉分野に係る課題等意見を持ち寄り、今後の活動の方向性を考えていくこととなった。

(以下意見)

- (委員) 藤原田地区の小学生の通学補助を是非お願いしたいと小学校のPTA、児童民生委員の方から要望があった。どうしてかと言うと、藤原田は山の中にあり、自治会過ぎると県道へ出るもので、縁石の上にガードレールがずっと繋がっている訳ではない。車がかなりのスピードで下っている所を児童だけで通っている。危険ということで民生委員の方が市の教育委員会へ要望したところ、停留所から停留所で測っていると思うが、3km以上だと補助が出るが2.3km弱ということで要望が却下されたということ。昨今色々問題も出てきており私達としても心配なので、検討いただきたい。
- (会長) 子育て分科会では非常に難しい部分があるかと思うので、事務局預かりとする。

(イ) 産業の活性化とまちづくりに関する分科会

- ・会長に斎藤明委員、副会長に斎藤ゆり子委員が選任。
- ・第5期からの申し送りとして、新しい観光という視点で分科会をスタートしたが、異業種の若手経営者による連携にポイントを絞った活動、新しい観光ということに人やモノや情報が行き交うことを目的としたもっと広義な意味での分科会ということで「丸子地域まちづくりに関する交流会」異業種交流会を2回開催した。
- ・申し送り事項として、異業種交流会の継続開催、具体的な情報発信などを丸子という地域を積極的にPRしていく、丸子温泉郷の活性化、マリコ・ヴィンヤードを活かした地域活性化に向けた取り組み
- ・協議事項として、昨年からの委員からこの交流会において以前から繋がりがあったメンバーもいたことからこれを機に更に密な情報交換をすることができた、業種によっては同業種間同志のつなが

りが意外に薄いこともあるのでこういった場を通して情報交換をしていくことは有意義である、具体的な活動をしていくには、必要な財源も探っていかなければいけない、それぞれの業種が更にアピールしていくことで丸子地域の発信につながる。

(ウ) 公共交通に関する分科会

- ・分科会長に富岡委員、副会長宮岸委員が選任
- ・事務局から前期からの申送り事項として、上田市の交通対策事業の概要、丸子地域循環バスまりんこ号の現状について説明。
- ・丸子地域協議会だよりに掲載されている「まりんこ号で行ってみよう」について利用促進とPRを目的として継続して掲載していくことを決めた。
- ・事務局からまりんこ号の車両更新について、現在車両は19年目に入り、走行距離が80万kmを超えて故障も多いことから、平成30年度に車両更新をすると説明。
- ・今後分科会としては、前期からの申し送り事項4項目、丸子地域の公共交通の在り方の検討、まりんこ号のルート変更の継続的な検討、まりんこ号の車体の更新について検討、増加する運転免許証の自主返納者の状況把握、を中心に丸子地域の公共交通について積極的に意見を述べていく。

5 その他

(1) 次回以降の会議日程(予定)について

- 第5回 8月28日(火)午後1時30分 丸子地域自治センター 4階講堂
- 第6回 9月26日(水)午後1時30分 丸子地域自治センター 4階講堂

(2) 前回質問「平成30年度丸子地域自治センターにおける重点目標について」の「可燃ごみの削減」に関する回答について

担当課より

- ・アレチウリ再資源化4トンの削減方法について、昨年度から駆除したアレチウリはクリーンセンターの火力燃料にしている
- ・可燃ごみ73トン削減について、平成30年3月に上田市ゴミ処理基本計画が策定され、平成30年度~39年度までの10年間で上田市の目標として平成28年度を基準として約16.1%の削減目標を設定、基準年の上田市全体の可燃ごみ排出量が34,210トンから5,510トン削減し28,700トンに目標値を設定、これを丸子地域に置き換え、同じように16.1%を削減するには基準年度の4,888トンから787トン削減し4,101トンが目標値、既に29年度実績が出ておりますので、それを差し引きますと平成30年度~39年度まで残り727トンの削減が必要、これを10年間で平均すると1年約73トンの削減が必要で、平成30年度の削減目標を73トンに設定した。

(以下質問)

(委員) 広域のゴミ処理というと長和町、東御市も関わってくるが、他市町村はどうなっているか。

(市民サービス課) 長和町が26年度が991トンから865トンに32年度までに目標設定しております。青木村が26年度が854トンが622トンに削減目標となっております。東御市が4,908トンから3,846トンに削減目標になっておりまして、上田市は34,622トンから31,600トンまで削減するというので、全体として10.7%削減目標となっております。

(3) その他 なし

6 平成30年度わがまち魅力アップ応援事業(第2回募集分)選考審査発表(非公開) 結果は3(1)記載の通り

7 閉会

【分科会の開催】各30分程度で実施

- | | |
|-----------------------|---------|
| 丸子地域の子育て支援及び福祉に関する分科会 | 3階第2会議室 |
| 産業の活性化とまちづくりに関する分科会 | 2階第6会議室 |